2025年度第２回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ （2025年９月28日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

Ａさんは、Ｘ株式会社（非上場会社・機械部品製造業）の代表取締役社長であったが、先月病気により70歳で急逝した。大都市圏に所在するＸ社は、Ａさんが40年前に設立した会社であり、その技術力は取引先から高く評価され、業績は堅調に推移している。Ｘ社の余剰資金は２億円以上あり、経営は安定している。

【事業承継について】

長男Ｃさん（45歳）は、１年前にＸ社の取締役に就任し、実質的に経営を担ってきた。その経営能力は非常に高く、後継者としての資質に問題はない。妻Ｂさん（70歳）は、長年、取締役として経理業務を担当し、Ａさんを補佐してきたが、引き続き、取締役として長男Ｃさんをサポートしていきたいと考えている。

Ａさんから長男Ｃさんへの事業承継は既定路線であり、家族内でも共有されていたが、承継を検討し始めた矢先に相続が発生したため、長男Ｃさんは、Ｘ社株式をどのように承継するべきか悩んでいる。

【資産承継について】

Ａさんは、遺言書を準備していなかった。妻Ｂさんが地方都市に暮らす二男Ｄさん（43歳）に意向を聞いたところ、二男Ｄさんから「親父が急死して、母さんや兄貴が大変なことは理解している。俺はＸ社の経営に参画することはないが、息子として親父の財産の一部をもらう権利はあると思っている」と言われた。長男Ｃさんと二男Ｄさんの関係は良好であるものの、妻Ｂさんは、兄弟間で相続財産の偏りが生じることに一抹の不安を感じている。

妻Ｂさんの健康状態は良好であるが、同い年であったＡさんが急逝したこともあり、自分に万一のことがないとも言い切れないと思っている。そのため、この先の生活を考えると相応の財産は確保しておきたいが、財産を多く相続すると自身の相続が発生した際に多額の相続税が生じるのではないかと不安を抱いている。二男Ｄさんにも配慮したいと考えており、どのように遺産分割をすべきか頭を悩ませている。

【Ａさんの相続財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金	：	3,000万円
２．死亡退職金	：	3,500万円（妻Ｂさんに支給）
３．Ｘ社株式	：	２億4,000万円
４．自宅		
①土地（200㎡）	：	7,000万円
②建物	：	2,000万円
５．Ｘ社本社土地（500㎡）	：	１億円（無償返還方式・通常の地代にて賃貸）
６．月極駐車場（250㎡）	：	3,000万円（アスファルト敷き）
合計	：	５億2,500万円

※Ａさんの相続に係る相続税額は、約１億4,100万円（配偶者の税額軽減・小規模宅地等の評価減適用前）と見積もられている。

※Ａさんは、契約者（＝保険料負担者）・被保険者をＡさん、死亡保険金受取人を妻Ｂさんとする生命保険（死亡保険金1,500万円）に加入していた。

【Ｘ社の概要】

資本金：1,000万円　会社規模：大会社　　従業員数：90人　　配当：毎期100円／株
売上高：16億円　　経常利益：4,000万円　　純資産　：４億円
株主構成（発行済株式総数２万株）：Ａさん80%、妻Ｂさん10%、長男Ｃさん10%
株式の相続税評価額：類似業種比準価額15,000円／株、純資産価額20,000円／株

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

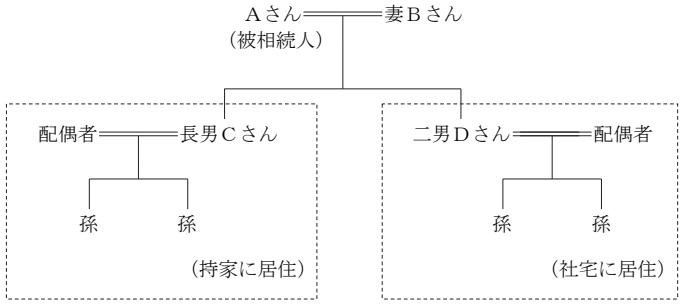
検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【Ａさんの家族構成（法定相続人）】

妻Ｂさん　（70歳）：Ｘ社の取締役。Ａさんと自宅で同居していた。
長男Ｃさん（45歳）：Ｘ社の取締役。妻と子２人の４人で持家に居住している。
二男Ｄさん（43歳）：会社員。妻と子２人の４人で社宅に居住している。

【親族関係図】



（メモ余白）